

団体名：アポーヨ・ミエ(拠点団体)

代表者名：中村博俊 連絡先：059-235-4677/080-4217-3967

住所：三重県津市東丸の内13-16

取り扱い量：30t ボランティアスタッフ数…3～5名

施設配布先：日系ブラジル人系の教会及び団体・学校、児童養護施設、障がい者授産施設

主要活動地域：三重県北部津市、鈴鹿市、伊賀市

事業概要

三重県津市を中心に日系ブラジル人及び外国人困窮者向けの支援をしている教育機関、相談所、教会に向けて食品を配布
毎月平均:約20施設布(約1000名)

ポイント

【費用負担の少ない運営】

倉庫機能としては、地元市議会議員の親御さんが経営している会社の空きスペースを無償で借りている。施設側に倉庫までの引き取りも担ってもらっている為、お金が余り掛からない形で行えている。

【個別案件の初期対応】

代表の本業は、在日外国人向けの仕事紹介業を行なっている。その関係で個別の仕事相談や食品の提供先でもある、多文化共生支援団体との繋がりがあり、生活相談などの初期対応をすることが可能。

取り組みの経緯

元々、セカンドハーベスト名古屋が日系ブラジル人系の教会とのつながりが深い事から、三重県方面への支援の必要性の訴えかけにより、1年ほど前より食品提供が始まった。

タイトル、小見出し：MS ゴシック 16 ポイント

文章：MS 明朝 10 ポイント、英数字 century 10 ポイント

活動方針

【日系人支援】

重点的にブラジル人、フィリピン人のコミュニティ・団体・教会を支援する方針

活動事例

【多文化共生支援団体】

多文化共生支援(語学講座・生活相談・通訳、翻訳)をしている団体窓口には食品が置いてあり、職員判断により必要な相手に合わせて配布数量の増減を変えている。更に必要な相手には、寄り添いホットラインのチラシを渡し、生活サポートの案内もしている。

【ブラジル人学校】

学校は自治体の補助を受けられずに授業料のみで学校を運営している。そのため、学校経営はとても苦しいのが実態である。授業料を高額にするしか運営が続けられず、滞納するも家庭多く、やむを得ず、中退しなければならない状況もあり、親も面倒見切れずに子どもの非行傾向を止められなケースもある。

最近、親向けの語学教室を始めて、とても人気。ただ、受講料を支払いきれない親もおり、受講を断ると関係性が途絶えてしまうので、提供された食品で少し補填している状況である。

提携食品企業

2 h j 及びセカンドハーベスト名古屋からの食糧供給(ひと月に3、4回)

成果と課題

対象者は、HONNDA・SHARP・SONY など大手の企業の経営悪化により、雇用が非常に縮小・不安定である。だが、本国に帰る資金もない、治安が悪い、学歴がなく帰っても日本以上に仕事が無いという認識がある。日本の方がまだ良いという思いで、不安定ながらも日本にいる状況

代表は、本業の傍ら、ほぼ一人で施設対応・配送をボランティアベースで行なっているので、継続的・発展的な運営については未知数である。